

平成 28 年 7 月の解説（府県天気予報）

【7 月の天候状況】

上旬は、旬の中頃までは梅雨前線が日本海に停滞し、前線上の低気圧が発達しながら北日本を通過しました。このため、北日本から東日本日本海側では曇りや雨の日が多く、2 日から 3 日にかけてと 6 日は北日本の所々で大雨となりました。旬の終わり頃は、梅雨前線が東・西日本付近に停滞し、台風第 1 号が 7 日から 8 日にかけて沖縄の南を西北西に進みました。このため本州付近には南から暖かく湿った空気が流れ込み、全国的に雨が降り西日本太平洋側では九州を中心に大雨となったところがありました。

中旬は、東・西日本では、旬の中頃まで梅雨前線が本州付近に停滞したため曇りや雨の日が多く、西日本付近で前線活動が活発化したため、九州を中心に大雨となったところがありました。旬の終わり頃は梅雨前線の活動が弱まり、西日本を中心に高気圧に覆われましたが、湿った気流や上空の寒気の影響で、にわか雨や雷雨となったところがありました。北日本では、低気圧と高気圧が交互に通過したため、天気は数日の周期で変わりました。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。なお、九州南部、九州北部、四国、中国、近畿、東海の各地方では、18 日ごろに梅雨明けとなりました（速報値）。

下旬は、旬の中頃までは本州付近は北に偏った高気圧に覆われたため、北日本日本海側を中心に日本海側で晴れの日が多くなりましたが、26 日から 27 日は気圧の谷の影響を受け、東日本日本海側では記録的な大雨となったところがありました。旬の終わり頃は、本州付近は太平洋高気圧に覆われ、東北以南では晴れて猛暑日となったところがありました。北海道では前線や低気圧の影響で雨が降り、大雨となったところがありました。なお、北陸地方では 22 日ごろ、関東甲信地方では 28 日ごろ、東北地方では 29 日ごろに梅雨明けとなりました（速報値）。

月平均気温は、沖縄・奄美ではかなり高く、東・西日本で高くなりました。久米島（沖縄県）では月平均気温の高い方からの 1 位の値を更新し、沖縄県内の 3 地点で 1 位タイの値を記録しました。月降水量は、北日本日本海側、沖縄・奄美で多くなった一方、北・東日本太平洋側で少なくなりました。白河（福島県）では、月降水量の少ない方からの 1 位の値を更新しました。月間日照時間は、北日本日本海側、西日本、沖縄・奄美で多くなりました。

【7 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 3 ポイント高い 83% で、明後日予報は例年値より 5 ポイント高い 80% でした。各地方の適中率では、明日予報については、沖縄地方以外の全ての地方で例年値より高くなりました。明後日予報では、東北地方と沖縄地方では例年値より低くなりましたが、それ以外の地方では例年値より高くなり、特に九州北部地方で 12 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3 小さい 1.5 となりました。また、全ての地方で例年値より小さくなり、特に東海、近畿、四国、九州南部の各地方では 0.5～0.6 小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2 小さい 1.0 となり、沖縄地方以外の全ての地方で例年値以下となりました。

（注）例年値は気象庁 HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【9 月の天気予報の利用にあたって】

9 月は、強い勢力の台風が接近・上陸しやすい月で、前線が停滞していると台風がまだ遠くにある頃から大雨となることもあります。また、1 年のうちでも天文潮が高い時期のため、台風が接近すると高潮による被害が大きくなることもあります。これまでに日本に大きな被害をもたらした台風の多くは、9 月に日本に接近・上陸しています。

台風が日本付近に接近すると予想されている場合には、最新の台風情報や警報・注意報など気象情報に十分留意して下さい。